

## 1 単元設定の理由

本校が進める海洋教育のねらいは「持続可能な郷土の未来」を拓く児童の育成である。『気仙沼の水産業』を柱に、働く人々の海への思いや考えそして豊かな自然環境や他地域との結びつき、防災・減災意識等の視点から、児童自身の設定した課題に基づいた複線型の追究学習を通して、郷土の産業や自分たちの暮らしが、自然環境を生かし、人々の工夫や努力によって支えられていることに気付かせていく。

課題設定、調べ学習、まとめのレポート作成、発表という流れで学習を進め、課題意識を耕し、方向性を見直しに役立つよう、ゲストティーチャーを迎えてのトピック授業も位置付けている。また、漁業体験を通して実感のある学びをさせるため、ワカメの養殖体験も位置付けている。地域の方や学習でお世話になった方々を招いて、5、6年合同での海のフォーラムを開催して学習が完結する。体験、探究、発信、交流を位置付けた一連の学習過程が大きな特徴となっている。

## 2 単元目標

### 【問題を解決する力】

- 海と共に生きてきた気仙沼の人々の生活に関心をもち、努力や工夫、願いなどについて、他者と協同して課題解決に取り組み、多様な視点から考えを深めることができる。

### 【主体的・創造的な学び方・態度】

- 海と共に生きてきた気仙沼の人々の生活、水産業、食、自然環境について、自ら課題を発見し、課題を解決するために整理・分析する活動の中で、自分の考えを広げたり深めたりし、更に発展した課題を立てるなど学び続けようとする。

### 【自己の生き方を考える】

- 海と共に生きてきた気仙沼の人々の生活を理解し、愛着を深め、地域の一員としての自覚を促すとともに、地域の将来について考えることができる。

## 3 単元の評価基準

### 【問題を解決する力】

- 気仙沼の海や人、食に興味・関心をもち、進んでふれ合おうとしている。

### 【主体的・創造的な学び方・態度】

- 地域の自然や食文化のよさに気づき、大切にしている。

### 【自己の生き方を考える】

- 自分の考えをはっきり表現し、相手の立場や考えを尊重している。

## 4 単元の指導計画

別紙

|    |    |    |    |      |     |     |     |    |    |    |
|----|----|----|----|------|-----|-----|-----|----|----|----|
| 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8・9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|----|----|----|----|------|-----|-----|-----|----|----|----|

【本校の窓口】総合学習の柱と5学年で目指す児童像】  
 柱1：豊かな自然や食文化に対する興味・関心 → 豊かな自然環境（海）や人との関わりへの関心を高める子供  
 柱2：自然保護と郷土の食文化継承・発展の意識 → 豊かな海の恩恵を導んで見つけ、海の環境を守る工夫や食文化とのつながりについて考える子供  
 柱3：考えを伝え合い、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度 → 豊かな海の恩恵を導んで見つけ、海の環境を守る工夫や食文化とのつながりについて考える子供、相手意識を持ちながら工夫して表現する子供

|     |                                |
|-----|--------------------------------|
| 題材名 | 『豊かな海、気仙沼』～見つめよう、考えよう、気仙沼の水産業～ |
| 時間  | 4～3月 60時間扱い                    |
| 関連  | 社会科、理科、国語科、防災教育、環境教育、情報教育、学校行事 |

【総括目標】  
 ◎気仙沼の海を素材にし、それを①震災前の豊かな水産資源や働く人々の生活、豊かな自然環境や他地域との結びつき、②震災後の人々の取り組み、③海への思いや考え④減災意識などの視点から、自らの設定課題に基づいた核心理の追求学習を行うことに基づいて、郷土の産業や自分たちの暮らしが自然環境を生かした人々の工夫や努力によって支えられていることに気づき、総合的かつ問題解決的な考え方を態度を育む。

『豊かな海 について調べよう』  
 4～12月【30】

『階上の未来』  
 1月～3月【15】

昨年度の実践記録・反省確認  
 ↓  
 題材構想・年間指導計画の立案  
 ↓  
 活用人材・施設選定／全体での年間計画説明・検討

I 「豊かな海」ってどんな海なの？ 【7】 「豊かな海」へのイメージをもとに、気仙沼や階上の海について調べたいことを話し合い、課題を決める。(7)

II 「豊かな海」について調べる 【26】

- 家族や海の仕事をしている人、商店や加工工場で働いている人へのインタビューを行う。
- インターネットや資料を用いての調べ学習
- 夏休みを利用した調べ学習

III 「豊かな海」としての気仙沼、階上の海についてまとめよう【12】

- 調べたことを整理し、分かったことをまとめる。
- 発表の準備をし、中間発表会をする。
- 中間発表会を経て、見つかった課題への解決に向かう。

I 海のフオーラムを開こう【15】

- ①自分の提言をまとめる。(2)  
・海のフオーラムで提言することとまとめる
- ②海のフオーラムの計画を立てる。  
いつ、どこで  
参加者は  
進行は etc (3)
- ③海のフオーラムの準備をする。(7)
- ④海のフオーラムを開催する。(2)
- ・海のフオーラムを開催し、未来の気仙沼について討論する
- ⑤海のフオーラムを振り返る(1)

計画・実践の評価と改善

【防災教育に関わる総合的な学習での中学年の目指す児童像】

『防災マップを作ろう』(8)  
 目標：自分の住んでいる地区の防災マップを作成することで、防災の意識を高めたり、災害時の行動を確認したりする。  
 【学習活動(時数)】  
 1. 地区ごとに班をつくり、地図で自宅を確認する。(1)  
 2. 身の回りの海抜を知る。(2)  
 3. 地図に様々な情報を書き込み、防災マップを作成する。(4)  
 4. 災害時の避難行動を考える。

『家族防災会議を開こう』(2)

目標：自宅で災害にあった時の身の守り方を考え、家族で確認する。  
 家族が一緒にいない時に、どのように連絡を取り合うのかを確認する。  
 【学習活動(時数)】  
 1. 家庭で話し合う内容について考える。(1)  
 2. 各自の家庭で、家族防災会議を開く。  
 3. 「我が家の防災計画」シートをもとに、話し合いの内容を発表する。(1)